

釣り仲間同士交流深める

よねしろレディース鮎カップ・よねしろ鮎カップ

「2007よねしろレディース鮎カップ・よねしろ鮎カップ」が8月5日、小猿部川で開催され、市内外から訪れた太公望たちが釣果を競いました。

今年の大会は、台風の影響で米代川が増水したため、急ぎよ会場を小猿部川に移して開かれました。参加者は、青森、岩手県など東北を中心に男性30人、女性2人。

競技は、縄張りを主張して攻めて来るアユを引っ掛ける「友釣り」で数と総重量、大きさを競うもので行なわれ、レディースで優勝したのは、五所川原市の小山内三哉子さん、よねしろ鮎カップでの優勝は弘前市の館山栄之進さんとなりました。



▲少ない釣果ながらも鮎釣りを楽しんだ鮎カップ

森吉山麓の大自然を満喫

アドベンチャー・ワールドチャレンジレース

第9回アドベンチャーワールドチャレンジレース2007MT森吉大会が7月28・29日の2日間、奥森吉と森吉山で行われました。

本大会は、NPO森吉山ネイチャー協会が山麓のブナ林、渓谷、溪流、森吉山縦走コースの魅力レースを通して全国にPRすることを目的に毎年この時期に開催されます。

初日は、桃洞渓谷を登り、桃洞杉、高場森割沢森、ヒバクラ岳、山頂、一ノ腰、妖精の森ゴールのトレッキング28km。2日目は林道とスキー場コースを組み合わせたランとマウンテンバイク25kmのコースで、参加した選手らは日本海を眺望する森吉山麓の大自然を満喫していました。



▲森吉山麓の大自然の中をマウンテンバイクで力走する選手



▲ドライバーに安全運転を呼びかける会員

安全運転を呼びかける

夏の交通安全目覚まし作戦

夏の全国交通安全運動が始まった8月1日、国道7号線沿いの道の駅たかのすで、北秋田警察署、交通安全母の会、交通安全協会員ら関係者80名が、「夏の交通安全目覚まし作戦」を展開しました。

この運動は、秋田県警察本部の「夏の交通安全運動」と国土交通省の8月の「道路ふれあい月間」がタイアップして、安全運転と道路の役割及び重要性を再認識し、道路の正しい利用の啓発を目的に行われたものです。

この日は、大館方向から能代方向へ向かう自動車を対象に行われ、ドライバーは、大太鼓の大音響が鳴り響く中、参加者からの呼びかけに、交通安全の意識を高めていました。



▲連日多くの人手で賑わったおばけやしき

阿仁合駅前倉庫で涼を体験

内陸線おばけやしき

7月28日から8月5日までの9日間、阿仁合駅前に「おばけやしき」が開設され、多くの子どもや家族連れなどで賑わいをみせていました。

この「おばけやしき」は、秋田内陸線おばけやしき実行委員会が内陸線の乗車向上を目的に企画。たざわこ芸術村・わらび座の演劇指導を受け、駅前の倉庫は本格的なおばけやしきに変身。内陸線利用者は入場料が割り引かれるとあって、角館方面からも多くの家族連れなどが利用していました。

恐る恐る入場した子供たちの中には、迫真の演技に絶叫する子もおり、真夏日が続く中、ひんやりとしたひと時を過ごしていました。

グラウンドゴルフで親睦深める

第17回秋田県グラウンドゴルフフェスティバル

第17回秋田県グラウンドゴルフフェスティバルが7月28日、大野台ハイランド広場で開かれ、全県から参加したプレーヤーが、緑豊かな会場で熱戦を繰り広げました。

開会式では、伊藤敬悦大会副会長が、「年々参加者も増え、今年は320人の参加者を迎えた。競技を通して、お互いの親睦と友好を深め交流の輪を広げてほしい」などとあいさつ。

大会には、地元合川、鷹巣、森吉GG(グラウンドゴルフ)協会の会員など県北、中央、県南の36団体から320人が参加しました。競技は、5人1組で4コース32ホールを回る個人対抗戦で行われ、時折り強い雨が降るのをよそにプレーと交流を楽しんでいました。



▲暑い戦いが繰り広げられたフェスティバル

優れた育林活動で県知事賞受賞

第41回秋田県林業コンクール

このほど開催された第41回秋田県林業コンクール「育林の部」で阿仁銀山の齊藤宏一さん(78)が秋田県知事賞を受賞し、7月27日市役所を訪れ佐藤副市長に受賞を報告しました。

齊藤さんは、旧広域消防本部阿仁分署長を退職後、林業農家として所有山林の育林・管理に努められている外、阿仁林業研究グループの副会長を長年務め、常に経営の改善・技術の向上を心がけ山づくりに取り組まれています。報告で齊藤さんは、「木材価格の低迷といった理由等から、民有林は維持管理の手が入りにくいのが、育林に熱心だった父にも影響され、山林に手をかけてきた。今後も、地域林業に貢献できるよう努めたい」と述べていました。



▲副市長に受賞の喜びを語る齊藤さん